

# 始める前のお願い

このパワーポイントに使われる子どもの写真は

**東京家政大学ナースリールームと一般家庭の**

許可を得て使用しています。

**写真の撮影や保存はご遠慮ください。**

2021年11月17日神奈川県私立幼稚園連合会

「今、求められる乳児保育」

## 2. 子どもと共に育つ保育者 —養護と教育・子ども理解—

井桁 容子

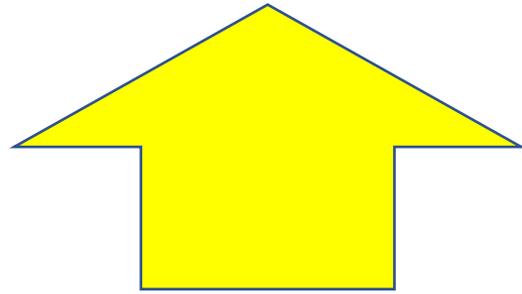
乳幼児教育実践研究家



人間の悟性にはいってくる  
すべてのものは、  
感覚をとおってはいってくるのだから、  
人間の最初の理性は  
感覚的な理性だ。  
それが  
知的な理性の基礎  
になっているのだ。

『エミール』ルソー著 今野一雄訳

乳幼児は、生活が遊びであり学び



保育者の専門性は、  
このことを証明できることにある

=B 児=

こだわりが強く

生活のなかでの

気持ちの切り替え

に時間がかかる

保育者

探究心

集中力

と解釈し尊重

お母さん

“しつこい性格”

“困った子”

# 生命とは何か？

「動的平衡」福岡伸一 著 木楽舎 参考

## ・機械のメカニズムと生命の仕組みの違い

機械は分解すると部品になる

機械  $\Rightarrow 1+1=2$

生命は部品を集めても生命体にならない

生命  $\Rightarrow 1+1=2+\alpha \Rightarrow$  時間

- 命のもつ柔らかさ、可変性、バランスを保つ機能がある
- 生命とは動的な平衡状態にあるシステム  
(シェーンハイマー: 生化学者)  
// 可変的でサスティナブル(永続的)なのが特徴

**サステナブル（永続的）**

自分を作り変えて、変化に適応でき、また自分の傷をいやすことができる



長持ちする、へこたれない、自分で立ち上がれる力を育てるには、応用がきいて自分を変える力（考える力）が育っていること



いつも同じことを決まったように  
指示されたようにできることでは育たない力

# VUCAの時代

(行き先が不透明で何が起こるかわからない時代)

**Volatility** 変動性

**Uncertainty** 不確実性

**Complexity** 複雑性

**Ambiguity** 曖昧性

子どもが安心できる  
大人の温かいまなざしと  
環境の保障がなければ  
子どもの育つ力は発揮  
されない



0・1歳児クラスで  
確認して欲しいことがあります。

1. 子どもが、一日のなかで一番目を向ける時間が長いのは誰ですか？

→ **保育者の動きや発信に注目させていないか？**

2. 保育者の周りに集まっている時間はどれくらいありますか？

→ **愛着の捉え違いをしていないか？**

3. どんな時に子どもを抱っこしますか？

→ **保育者の都合ですべてしていないか？ 無意識の習慣にないか？**

# 0 1 2 歳児の生理的な欲求への対応

## ★自分の体の状態を分けることが大切な課題

**食** ・ ・ ・ 様々な味に出会う時期  
個人差が大きい

(乳児反射の消失・咀嚼力・歯・味覚・運動量)

\* 「保育所における食事の提供ガイドライン」厚生労働省

**睡眠** ・ ・ ・ 心身の成長に重要  
個人差、日によって異なる  
(自律神経・運動量・体調など)

# ★社会状況、あたらしい情報に基づいて保育する

(授乳離乳の支援ガイドより・平成19年 厚生労働省)

- 固形物が入ると舌で押し出そうとする乳児反射があるうちは、離乳食は進められないので、スプーンの練習などを早期に行う必要はない。

\* **離乳開始前に（果汁）などをあえて与える必要はない。**

- ・ 糖分が多く血糖値が上昇、食欲が抑えられる

- ・ 乳汁の摂取量低下によりミネラル類の摂取量低下の危惧

- ・ 乳児期以降における果汁の過剰摂取傾向と低栄養や発育障害との関連が報告されている

- 指しゃぶりは生後2カ月頃から、また4か月ごろからは玩具しゃぶりが盛んに見られる。口の中をさまざまに刺激するこれらの行動は、（**乳児反射の消失** と **随意運動**）を促すのに役立つ。この時期の指しゃぶりは止めさせないようにする。

# ＝味 覚＝

- ・ 甘 味・・・エネルギー源となり快感を得る。
- ・ 塩 味・・・身体に必要なミネラル。濃度が高くなると不快
- ・ 酸 味・・・腐敗物の味。動物は酸味を嫌がる。  
代謝促進のはたらきもある。
- ・ 苦 味・・・毒物のシンボル。高濃度は身体に良くない。
- ・ うま味・・・たんぱく質の情報。日本人が発見。

Umami は アミノ酸の一種グルタミン酸を舐めた時の味

生存に重要な甘味、塩味は  
過剰摂取になりやすい。  
素材の持つ味の情報を得る  
ために薄味が重要

## <好き嫌いの原因>

- ・小さい時に良く食べたものは、好きになる
- ・楽しい思い出
- ・初めて食べた時の経験が左右する
  - ⇒舌ざわり、飲み込めなかったなど
- ・食後不快感を覚えると嫌いになる
  - ⇒叱られた、吐いたなど
- ・無理強いは嫌いになる

おいしい ⇒ 視床下部の摂食中枢が働く

まずい ⇒ 視床下部の満腹中枢が働く

= 「おいしい」の要素 =

① 生理的な要素

生まれつき備わっている

② 体内欲求性の要素

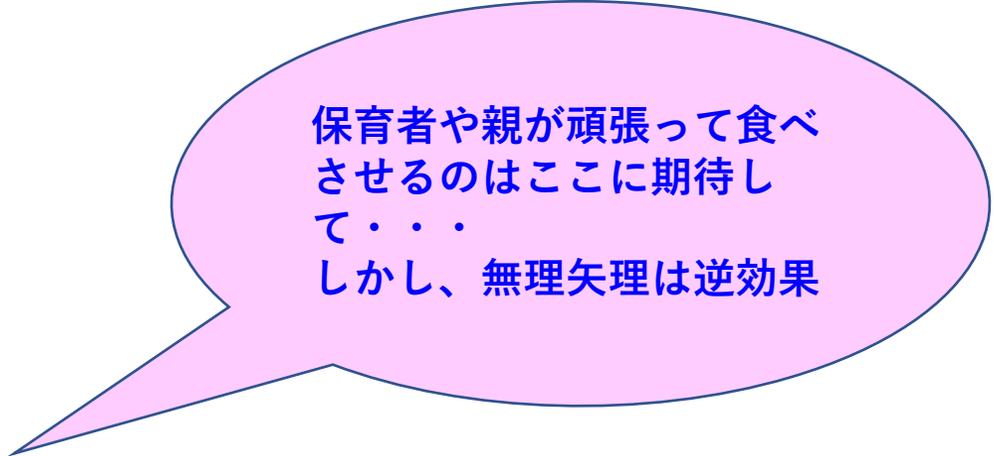
不足すると欲しくなる

③ 獲得的な要素

はじめはおいしくないものでもだんだんに馴れて・・・

④ 観念的な要素

大好きな人が食べていた、テレビで・・・



保育者や親が頑張って食べさせるのはここに期待して・・・  
しかし、無理矢理は逆効果

## 「保育所における食事の提供ガイドライン」

2章 より抜粋 (厚生労働省・平成24年3月)

### (1) 発育・発達のための役割

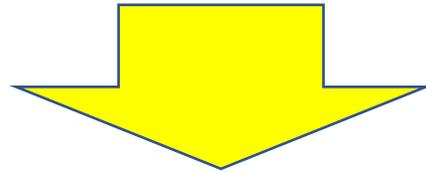
- ① 「お腹がすくリズムのもてる子ども」
- ② 「食べたいもの、好きなものが増える子ども」
- ③ 「一緒に食べたい人がいる子ども」
- ④ 「食事づくり、準備にかかわる子ども」
- ⑤ 「食べ物を話題にする子ども」



**頑張らせて残さず食べることが目的ではなく、  
楽しく食べる子どもを育むことを求めている。**

# 保育者は重要な環境

子どもの成長や発達に重要な役割を果たす存在  
子どもの発達のプロセスのカギとなる役割



**自分自身を改善し続けることが重要**

「知行合一」 「君子豹変」

これからの教育が目指す

主体的 ・ 対話的 ・ 深い学び

# 子どもの主体性は

無いものを育てていくのではなく

あることを信頼し

丁寧な関わりの中かで支え、

のびやかに力強く育む

これからの教育が目指す

主体的 ・ 対話的 ・ 深い学び

# 対話（コミュニケーション力）が必要な理由

一人では生きていけないから

- ・人間の脳が大きくなったのは、**共同繁殖**してきたから
- ・**言葉**を持った

みんな違っているから**共感**が大事

得意なことと苦手なことを補い合える

教えられらことを覚えてできるようになる

→ みんな同じ  
意味記憶

経験を通して感じ考え、分かる

→ その人だけのもの  
エピソード記憶



子どもの才能と個性を切り拓く教育とは

## 「経験の連続性と相互作用」

ジョン・デューイ（アメリカの哲学者）

『経験と教育』市村尚久 訳

2004年10月 講談社より

手間暇がかかることが苦手な今の大人たちへ

大事なことは、手間暇かかって育つ

人は手間暇かけたことに愛が育つ

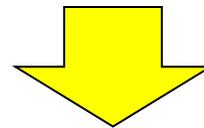
## = 失敗は新たな創造の種 =

- ・ 日本の子どもも大人も創造力が欠如しているのは、教育の失敗

→ うまくいく話は誰かが考えてやったもの

- ・ 他の人の成功のマネが成功の近道の時代は終わった
- ・ 決められた課題に解を出すのではなく、

自分で課題を設定できる能力がもためられている

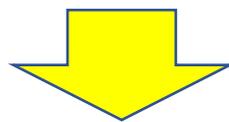


### 情報の知識化

真の原因をきちんと解明する  
誰にも見える形で知識にする

失敗がない！と喜んでいることが  
すでに

**失敗！！**



退歩が下手な人は進化も下手

**失敗を学びに変えて活かせる手伝いが大事**

# ナースリールームの庭



## ◆ 回遊性 ◆

限られた空間の中で、できるかぎり子どもたちがのびのびと広がりを感じることができるようにしました。くぐる、またぐ、注意深く通る、坂道、バランス感覚などさまざまな感性を働かせて通り抜けます。また、静的あそび、動的あそびの棲み分けができます。



## ◆ わくわくどきどき ◆

小鳥が遊びに来ていることに気づいて、どきどきしながら観察したり、風の強さで動きが変化する木の枝のそよぎを不思議さや怖さを感じながら楽しんだりすることができます。ユスラウメ、柿、さくらんぼ、イチゴなど食べられるようになるまでをわくわくしながら待ちます。また、歩き始めは、段差やスロープに緊張しながら挑みます。オリジナルシーソーや一本橋、で、揺れやバランスを取る遊びが楽しめ、囲いなしのツリーハウスでは、隠れ家になったり、ロープを下げた簡単なブランコも楽しめます。

## ◆ 季節感 ◆

季節感が味わえる植物（梅、桜、つつじ、アジサイ、ばら、梅花ウツギ、百日紅、クレマチス、紫式部、もみじ、柿、ミモザなど）が植えられています。



## ◆ 多様性 ◆

さまざまな植物（食べられるもの、食べてはいけないもの、香り、色、大きさ、成長のちがいなど）や生き物（かなへびやとかげ、バッタ、コオロギ、カマキリ、テントウムシ、ミミズ、蝶 他）に親しみ触れることができます。

## ◆ 五感が豊かに刺激される ◆

甘い香り、刺激のあるにおいの実、辛い味の葉っぱ、ざらざら、つるつる、ふさふさなど、さまざまな植物から感じるものがあります。また、園庭の高さが異なるので、視覚をとおして見上げる、見下ろすなど見え方の変化を感じることができます。

## ◆ ダメと言わないで済む環境 ◆

子ども自らの感性で注意ができる体験の場を保障することで、保育者が否定的な言葉を言わないで済む環境に配慮しました。

## ◆ 調整や加減が学べる ◆

食べられるイチゴ、食べられないヘビイチゴ、そっと触れる、思い切り枯れ枝を折る、今は取ってはいけない、今なら好きなように取っても大丈夫な実など加減や調整を学ぶことができます。

## ◆ 安全にのびのびと ◆

足洗い場は、ストレートに洗い場に入ることができるように考えました。水遊び、泥んこ遊びなどで汚れ、冷えた手足は温水ですぐに清潔にすることができます。木製遊具は、防腐剤の使用されていない木材を使用し、メンテナンスは植物油を使います。ささくれに注意し、定期的にやすりをかけて確認します。アフォーダンス理論を応用し高い部分の端には植物を植えて、踏まない気持ちを誘うようにしました。

# 村田保太郎 著

『特選 保育の根っこにこだわろう』全国社会福祉協議会より

- しつけという名の押し付け
- もぐらたたき療法

## かなりや

西条八十  
成田為三

作詞  
作曲

歌を忘れたカナリやは  
うしろの山にすてましょか  
いえいえ それはなりませぬ

歌を忘れたカナリやは  
背戸のこやぶにうめましょか  
いえいえ それもなりませぬ

歌を忘れたカナリやは  
柳のむちでぶちましょか  
いえいえ それはかわいそう

歌を忘れたカナリやは  
ぞうげの船に銀のかい  
月夜の海に浮かべれば  
忘れた歌を思い出す

# 乳児保育における遊びの環境とは

乳幼児自身が主体的に

自分の感覚を十分に使って

かかわることのできる

人的・物的環境を保障すること

それがやがて

学ぶ意欲、関わる意欲、生きる意欲に